

地区防災福祉コミュニティの形成を目指した 「まちの減災ナース育成研修」の評価

— 受講者アンケート調査より —

網木政江¹⁾，村上祐里香²⁾，牛尾裕子²⁾
齋藤美矢子²⁾，緒方彩乃²⁾，榊原弘之³⁾

1) 山口大学地域防災・減災センター

2) 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻

3) 山口大学大学院創成科学研究科工学系学域

日本災害看護学会大25回年次大会 COI開示

- 演題名 : 地区防災福祉コミュニティの形成を目指した「まちの減災ナース育成研修」
の評価 —受講者アンケート調査より—
- 発表者氏名 : 網木政江
- 所属・役職 : 山口大学地域防災・減災センター・学術研究員

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業・組織および団体等はありません。

はじめに

防災福祉コミュニティとは

- ▶ 同一のコミュニティに展開される防災対策と福祉対策の一体的取り組みを目指す実践的、戦略的概念(峯本, 2013)
- ▶ 市民, 事業者及び市の協働により, 地域福祉活動と地域防災活動との緊密な連携を図りつつ, これらの活動に積極的に取り組むコミュニティ(倉田, 1999)

【先進事例】

- ・ (神戸市) 市内全域、小学校区単位を基本に防災福祉コミュニティを結成し、要援護者避難支援や防災教育に取り組む
- ・ (松本市) 地元町内会と福祉グループ連携による災害発生時の要援護者避難支援対策
- ・ (横須賀市) 企業や消防OBを活用した人材育成

地区防災計画制度と地区防災福祉コミュニティづくり

2013年6月 災害対策基本法改正

市町村の一定の地区内の住民らによる自発的な防災活動に関する
「地区防災計画制度」の創設(2014年4月1日施行)

平時も災害時も機能する防災福祉コミュニティの形成



【戦略】

小学校区を単位とする地区コミュニティとの協働による
「まちの減災ナース育成研修」

用語の定義

地区防災福祉コミュニティ

災害発生時においても地域の強い連帯感のもと、住民が主体的となり適切な防災活動および福祉活動を展開できるよう、平時から防災活動や福祉活動など、地域活動に積極的に取り組むコミュニティ。

研究目的

A市の隣接する3小学校区で実施した「まちの減災ナース育成研修」の受講者アンケートに基づき研修を評価し、他地区へ普及できる研修プログラム開発への示唆を得る。

研究方法

■ まちの減災ナース育成研修の企画・実施

【対象】 A市3地区に在住または在勤し、災害看護に関心があり、地区で減災活動や災害支援活動に取り組みたいと考えている看護職。

【実施時期, 回数】 2022年7月～10月, 4回コース

■ 研修受講者への無記名自記式アンケート調査

【対象】 受講者14名(各地区4～5名)

【方法】 各回研修終了後に会場で実施。オンライン開催時は返信用封筒で返信。

【内容】

① 対象者の基本情報	④ 仲間作りや関係者との関係構築
② 受講動機	⑤ まちの減災ナースとしての今後の取組み
③ 研修内容の満足度・理解度	⑥ 研修の感想

【分析】 記述統計と自由記載内容は質的分析を行い、学習到達度と研修企画・実施の視点から評価

倫理的配慮

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認(693-1,2)を得て実施した。

対象者には、文書を用い、研究の目的、方法、個人の自由意思に基づく同意、協力しない場合も一切の不利益を被らないこと、無記名の調査であり、個人が特定されないこと等について説明し、回答内容の研究データ利用について同意を得たデータのみ使用した。

まちの減災ナース育成研修

【ねらい】 減災活動に必要となる基礎知識の習得、課題解決能力の育成、受講生同士および地区防災関係者との関係作り

【目的】 災害医療・看護の基礎知識を学ぶとともに、地域特性や防災・減災に関する課題に対し看護の視点を持ち課題解決できる能力を養う。

【到達目標】

1. まちの減災ナースの役割について理解できる。
2. 災害医療・看護の基礎知識について理解できる。
3. A市、主に居住(または勤務)地区の特性を明確にできる。
4. A市、主に居住(または勤務)地区の防災・減災に関する課題を挙げることができる。
5. 研修終了後の減災活動の展望を述べることができる。
6. 受講生同士の仲間作り、地区防災関係者と顔の見える関係作りができる。

研修プログラム

回	研修形態	内容	講師
第1回 (半日)	オンライン 講義	<ul style="list-style-type: none"> ● 「まちの減災ナース」とその役割 ● 災害医療・看護の基礎知識 	保健学科教員 (まちの減災ナース指導者)
第2回 (半日)	講義	<ul style="list-style-type: none"> ● A市の地域特性と防災の取り組み ● 水害時における高齢者の避難行動支援 	市防災危機管理課 工学部教員
第3回 (1日)	GW 講義 ミニシンポジ ウム	<ul style="list-style-type: none"> ● 「私たちが生活する地区の防災・減災活動の現状と課題」 ● A市における要配慮者の対応と課題 	市地域福祉課 } シンポジスト
		<ul style="list-style-type: none"> ● テーマ「地区の防災・減災への取り組み」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自主防災会の立場から 2) 地域包括支援センターの立場から 3) 地域・保健福祉支援チームの立場から 	
第4回 (1日)	講義 GW	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス等の感染症に配慮した避難所運営 ● 災害ボランティアセンターの運営 	市地域福祉課 市社会福祉協議会
		<ul style="list-style-type: none"> ● 「地区の防災・減災に関する課題とまちの減災ナースとしての今後の取り組み」 	

結果

受講者数14名、アンケート平均回収率 92.7%

■ 受講者の背景

【職種】 看護師12名，保健師1名，准看護師1名

【看護職経験年数】 20年以上 9名，10～20年未満 2名，10年未満2名

【災害看護研修の受講経験者】 4名

【災害支援活動の経験者】 1名

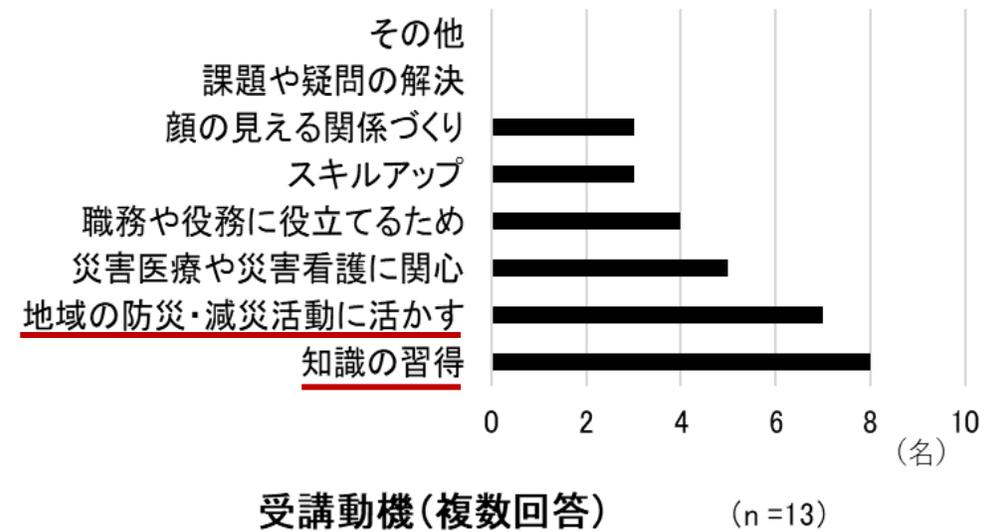
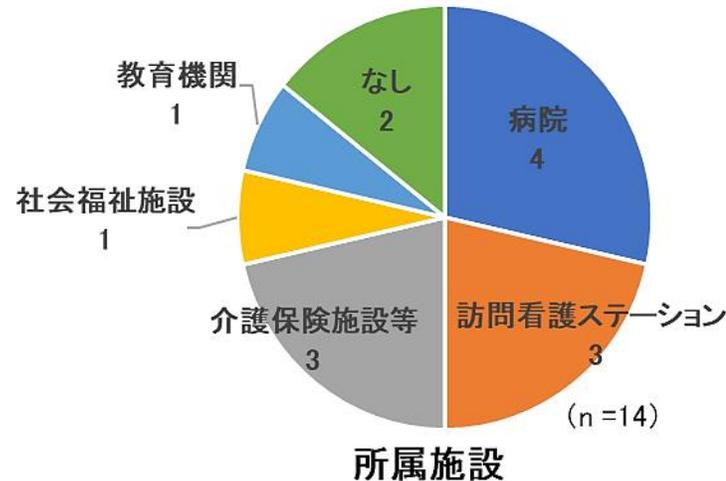
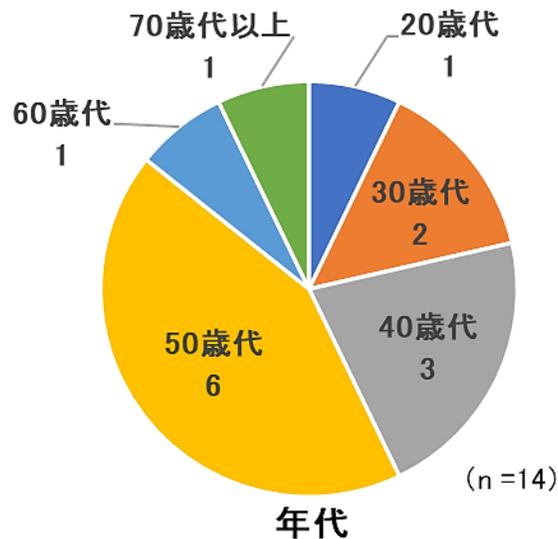
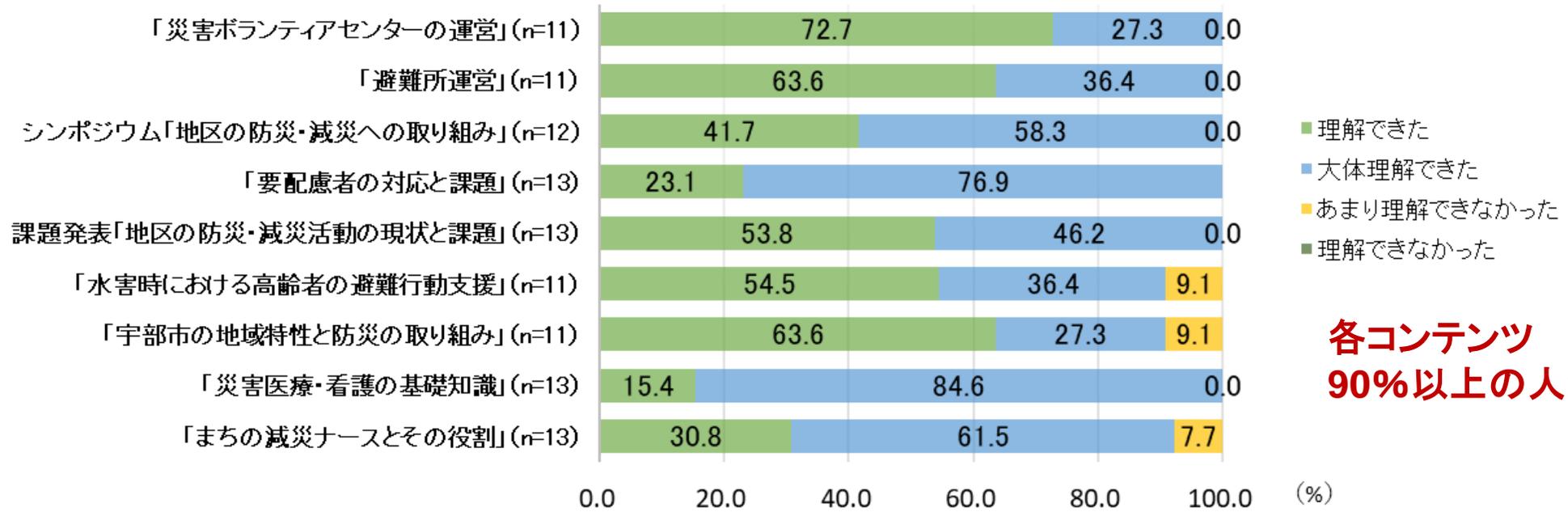


図1 受講者の背景



**各コンテンツ
90%以上の人理解**

図2 講義・発表内容の理解

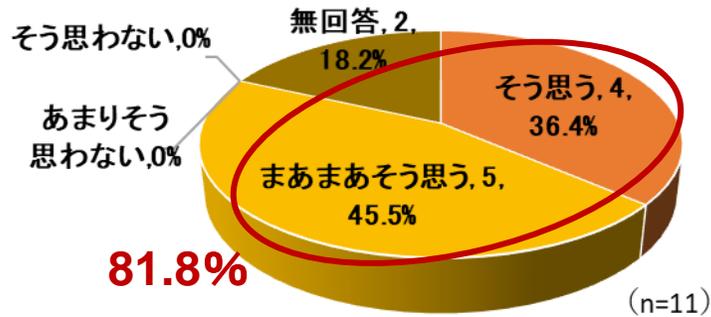


図3 減災ナースとしての取組を具体的に考え、動機が高まったか

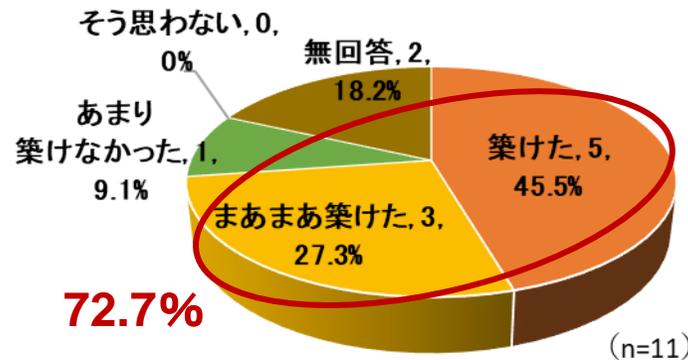


図4 今後につながる仲間作りや関係者との顔の見える関係作りができたか

●研修の満足度 (第1~4回平均) **97.9%**

「満足できた」	62.5%
「まあまあ満足できた」	35.4%
「あまり満足できなかった」	2.1%

●研修時期／研修時間 (第1~4回平均)

「適切である」	75.0%
「やや適切である」	25.0%

■まちの減災ナースとしての今後の取り組み（自由記述）

（ ）数字はデータ数

- ▶ 地域活動に参加し、地域住民と顔見知りになる（5）
- ▶ 自主防災会の方と繋がりをもち、活動に参加させてもらう（4）
- ▶ まちの減災ナースの立ち上げや活動について検討する（4）
- ▶ 防災訓練に参加する（2）
- ▶ 地域住民の防災意識を高められるよう活動する（2）
- ▶ 仕事の中でも減災のために地域の方にできることを考える（2）
- ▶ 避難所開設時の様子を見に行き現状を知る（1）

■ 研修に関する感想

〈研修方法〉

() 数字はデータ数

- グループワークで意見交換ができ有益だった (5)
- 地区活動をしている人との顔合わせができ、話を聞いたのがよかった (2)
- オンライン研修は受講生同士のコミュニケーション、関係づくりが難しい (2)
- (ハイブリッド実施時) オンライン音声がよく聞き取れなかった (2)

〈研修内容〉

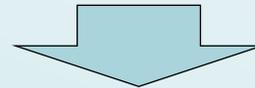
- 災害看護の基礎知識を得られる内容であった (7)
- 各地区のこと聞けて今後の活動の参考になる内容だった (5)
- 確認したかったこと、詳しく知りたかったことを学べる内容であった (2)
- 写真や実例を用いた講義は理解促進につながり、分かりやすかった (5)

考察

A. 減災活動に必要なとなる基礎知識の習得

- 【到達目標】
1. まちの減災ナースの役割について理解できる.
 2. 災害医療・看護の基礎知識について理解できる.

- ▶ 基礎知識は、自己評価では概ね理解できていたが、「地区防災計画制度」に関する記述がなく、地区防災福祉コミュニティ形成の基盤となる「地区防災計画制度」についての理解が浅いのではないか。
- ▶ 他地区へ普及するには、受講者自身がレディネスに応じて学べる方法がよく、講師・運営スタッフの負担軽減も考慮する必要がある。



- ★ 「**地区防災計画制度**」を重点化した研修プログラムに修正
 - ・「地区防災計画制度と防災福祉コミュニティ」の講義を追加
 - ・地区防災計画制度の先駆的取り組み事例の事前調査をもとにした共同学習
- ★ **基礎知識の学習は、事前課題として、研修前にオンデマンド配信へ**

B. 課題解決能力の育成

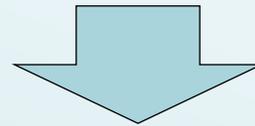
- 【到達目標】
3. 地区の特性を明確にできる.
 4. 地区の防災・減災に関する課題を挙げることができる.
 5. 研修終了後の減災活動の展望を述べることができる.

- ▶ アンケートの記述や発表より、居住 / 勤務地区のコミュニティやハザード等の地区特性、ならびに住民の防災意識、防災訓練のあり方、避難行動要支援者名簿の取り扱い等、防災・減災に関する課題について学べていることが分かった。
- ▶ 地域・地区の理解が、個人あるいは「まちの減災ナース」として取り組む意識に、前向きな変化をもたらし、課題解決に向けた具体的な活動を描くことにつながっていた。
- ▶ これらより、地区防災関係者へのインタビュー課題、グループでの共同学習、ミニシンポジウムが有効であったと考えられた。

C. 受講生同士および地区防災関係者との関係作り

【到達目標】6. 受講生の仲間、地区防災関係者と**顔の見える関係づくり**ができる。

- ▶ インタビュー課題、ミニシンポジウムを通じた地区防災関係者との交流、グループでの共同学習は、仲間や関係者との関係構築の機会になり、受講者のコミュニティ参加の意向につながったと考えられ、防災福祉コミュニティ形成に向けた第一歩となった。



★ **地区防災関係者へのインタビュー課題、ミニシンポジウム、グループでの共同学習を今後も研修プログラムに入れていく。**

- ▶ オンラインへの変更を余儀なくされた場合も、参加者の相互交流が図れるよう、プログラム構成の工夫やシステムを活用した講義方法の工夫が必要。

結論

- 地区防災関係者との協働による「まちの減災ナース育成研修」の満足度は高く、減災ナースとして活動していく動機づけとなっていた。
- 基礎知識の習得の点で、「地区防災計画制度」に関する理解不足が懸念され、その部分を強化する研修プログラムの改善につながった。
- 地区防災関係者へのインタビュー課題、ミニシンポジウム、グループワークは、地区の防災・減災活動に関する理解を深め、まちの減災ナースとしての具体的な活動を描くことにつながっていた。

また、受講者同士、地区防災関係者との関係構築の機会になり、防災福祉コミュニティ形成を目指す研修プログラムとして重要な要素と考えられた。

**ご清聴いただき、
ありがとうございました。**

